

雅楽だより

《目次》

●熱田神宮 踏歌神事 舞楽神事	1	●「雅楽が大好き」笙 YUU	9
●雅樂いろいろ Q & A (5)	芝 祐靖 5	●情報欄	10
●鶴殿ヨシ原に高速道路が 雅楽の危機	6	●CD「胡笳の声」	12
●ヨシ原焼きについて	内本隆謙 7	●新刊『雅楽を知る事典』	12
●『體源鈔』とその時代 (5)	遠藤 徹 9		

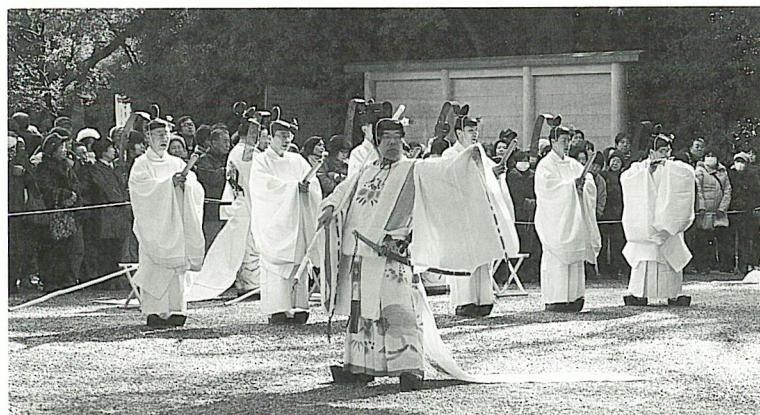
中村仁美
遠藤徹著

第33号
発行

2013(平成25)年4月
雅楽協議会



熱田神宮 5月1日 舞楽神事 振鉾



熱田神宮 1月11日 踏歌神事

平安時代末に、琵琶の譜面の「三五要録」、箏の譜面「仁智要録」などを纏めた藤原師長は、平清盛の激怒を招き治承3（1179）年に都を追われ、尾張の国に流された。帰

藤原師長、「流泉」を弾く

熱田神宮は、雅楽の上でも古くから宫廷との繋がりの深さが伺える。

113歳で和風長寿楽を舞う 尾張浜主

平安時代、雅楽を日本風に改めるのに大きく貢献し、我が国の笛の祖で蘭陵王を習い伝えたといわれる尾張浜主は、天平5（733）年、熱田神宮の社家に生まれ、楽才に長けて若くして宮廷楽人となり、承和12（845）年113歳の高齢のときには大極殿で和風长寿楽を舞つたという。また、笛の指導書でもある『五重記』（注1）を書いたことでも知られている。



113歳で和風長寿楽を舞う尾張浜主

熱田神宮の踏歌神事、舞楽神事を尋ねて名古屋へ出かけ、熱田神宮の神職の方、宝物館研究員の方々、及び桐竹会の方々にいろいろと教えて頂いた。

一月十一日 踏歌神事

平安時代からの伝統 热田神宮

郷を願つて熱田神宮の神前で琵琶の秘曲「流泉」「啄木」「楊真藻」などを奏したところ熱田の大神は感動されて社殿が揺れ動き、人々は感銘したと『平家物語』『保元物語』『今鏡』『十訓抄』『源平盛衰記』などに書き残されている。

のち藤原師長は許されて都へ帰るとき、愛器白菊の琵琶を熱田神宮に奉納した。現在はその写しの琵琶が残されている。



藤原師長が熱田神宮の神前で名器白菊の琵琶を弾奏している様子を描いている。

平安時代から始められた舞楽神事

熱田神宮には平安時代末・治承2(1178)年に修復した次の舞楽面が残されている。

納曾利面	2面
納曾利面	2面
崑崙八仙面	2面
二の舞面	1面
貴徳面	1面

修復した年号の入った舞楽面が残されているので平安時代末にはすでに舞楽が行われていたことを物語っている。舞楽神事がいつか

乱世で舞楽断絶 奏楽のみ

鎌倉時代までは続けられている舞楽神事も記録(注2)によると「乱れ世の打ち続ぎ、



鎌倉時代の鼃太鼓

平安時代末に修理してから100年間も大切に使用している。面を新調したときからでは200年余り使用しているのだろうか。弘安2年は他に、新面として陵王面1面、貴徳面1面も修理している。その他に、採桑老、拔頭などの古面もある。(注2)

面のほかに鎌倉時代の、左方の鼃太鼓が残されている。

火炎総高 2・69m 幅 2・3m 脪長 67cm
太鼓胴径 92cm

「熱田神宮舞楽之図」(注2)などによると、100年後の鎌倉時代の弘安2(1279)年に崑崙八仙の2面を、弘安7(1284)年に還城樂1面を修理している。(注2)

平安時代末に修理してから100年間も大切に使用している。面を新調したときからでは200年余り使用しているのだろうか。弘安2年は他に、新面として陵王面1面、貴徳面1面も修理している。その他に、採桑老、

抜頭などの古面もある。(注2)

この「乱れ世の打ち続ぎ」が応仁の乱を指すものと思われるが、特定できないという。応仁の乱(応仁元(1467)年～文明9(1477)年)の時代か、その後か、書かれた年は不明だが、文明(1469)～1486)年間の神事記(注2)には「春秋

二度の舞楽の日次も載たれど、はや其頃は絶えだえにして、形はかり行ハれしと思へる、事もあり、是より後は、猶はた絶果て、楽人の家は有ながらも、たゞ、大御饌奉るの折々、神の御幸の時にのみ音楽はかりをそ奏ける事なるに」と記されている。春秋二度の舞楽の記録はあるが、やつとなんとか形だけが行われ、これより後は絶え果て、楽人の家は有るが祭典のときに樂の演奏のみになつたといふ。

舞楽を続けられなくなつたと書かれている。この「乱れ世の打ち続ぎ」が応仁の乱を指すものと思われるが、特定できないという。応仁の乱(応仁元(1467)年～文明9(1477)年)の時代か、その後か、書かれた年は不明だが、文明(1469)～1486)年間の神事記(注2)には「春秋

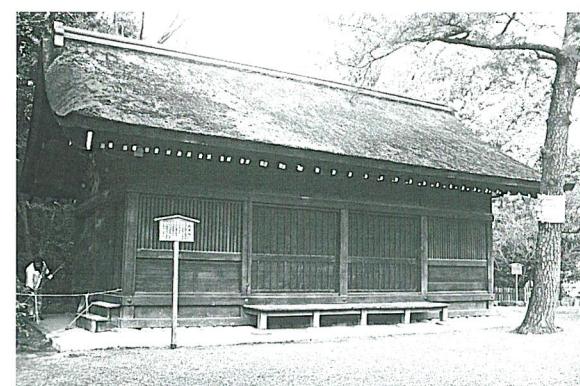
二度の舞楽の日次も載たれど、はや其頃は絶えだえにして、形はかり行ハれしと思へる、事もあり、是より後は、猶はた絶果て、楽人の家は有ながらも、たゞ、大御饌奉るの折々、神の御幸の時にのみ音楽はかりをそ奏ける事なるに」と記されている。春秋二度の舞楽の記録はあるが、やつとなんとか形だけが行われ、これより後は絶え果て、楽人の家は有るが祭典のときに樂の演奏のみになつたといふ。

名古屋東照宮

紅葉山より早く樂人を召抱える

舞楽が途絶えて150年あまり後、徳川家康が元和2(1616)年に亡くなり、名古屋城三の丸に尾張徳川家初代義直によつて家康を祀る東照宮が創建された。東照宮の祭りは家康の三回忌より始められ、翌(1620)にお旅所を若宮八幡社の北に設け、「神幸の儀」を行う。祭りは年々盛んとなり寛永7(1630)年には、東照宮は京都から樂人を招いて道樂が奏された。

翌(1631)年には、名古屋東照宮に樂



桧皮葺の西楽所。貞享3(1686)年、將軍綱吉によって再建され、現在も舞楽神事で使用されている貴重な建物。

東照宮の祭礼は年を追うごとに盛大に行わる始められたかは定かではないが、平安時代の早い時代から行われていたことを裏付けている。

鎌倉時代

舞楽面を再び修理

これ等の平安時代末に修復した面のうち、
「熱田神宮舞楽之図」(注2)などによると、
100年後の鎌倉時代の弘安2(1279)
年に崑崙八仙の2面を、弘安7(1284)
年に還城樂1面を修理している。(注2)

御封も多くは失い、神税の薄く成る故に舞楽も終には絶やしならむ」とある。すなわち領土の多くを失い、税もあまり入らなくなつて名古屋東照宮では樂人を置いたことになる。

舞楽を続けられなくなつたと書かれている。

この「乱れ世の打ち続ぎ」が応仁の乱を指すものと思われるが、特定できないという。応仁の乱(応仁元(1467)年～文明9(1477)年)の時代か、その後か、書かれた年は不明だが、文明(1469)～1486)年間の神事記(注2)には「春秋

東西（左右）の立派な樂所が建てられたと
いうことは、舞樂が行っていたことを充分
に予測させる。

この西樂所は現在も舞樂神事での樂人の奏
樂場所として使われている。
なお、江戸時代の史料（注4）によれば、
「樂所」を「がくしょ」とルビが振られている。
樂物を指すときは樂所を「がくそ」ではなく
「がくしょ」と読んだようだ。

元禄12（1699）年

舞樂装束を新調

樂所を再建してより13年後、幕藩体制も落
ち着いた元禄12（1699）年、熱田神宮で
舞樂面と装束を新調している。（注2）

新調した舞樂面と装束は

陵王面	1面	同舞樂装束	1具
納曾利面	2面	同舞樂装束	2具
狛桿装束	2具		
太平樂装束	2具	太刀	2腰
左右樂方装束	13具		

これらを新調して樂所に納めている。

この中の左右樂方装束13具とは、名古屋東
照宮の樂人の人数と同じなので、熱田神宮專
用の管方装束を新調したものとも思われる。
ただ13人を選ぶのに「昔からの伝えられて
いる樂人も、技量の及ばないものは止められ、
技量のあるもの13人を選んだ」（注2）と記
されている。

享保になり舞樂が廢れる

元禄の時代に舞樂が再興されて20数年後、

幕府の財政も逼迫し享保の改革などが行わ
れている享保7（1722）年の舞樂は、振鉾（えんぶ

太平樂 狛桿 陵王 納曾利が舞われた（注
2）が、その後は「いにしへのことく舞樂の
給田もあらねは、業を励むへき便りの時なく、
おのつからに又止ぬ」（注2）と、舞樂を維
持していく財力などもなく演じられなくな
つたという。

さらにその後、延享（1744～47）
明和（1764～71）寛政（1789～
00）の「大宮遷しの翌日」でも舞樂は舞わ
れなかつたと記録されている。（注2）

文政で再び再興

太平樂、陵王、納曾利も

熱田神宮で舞樂が舞われなくなつてか
ら100年あまりのときが経つた文政元
(1818)年、若いときより雅樂を習うた
めに京都にも出向き教えを受けた若山久安

は、熱田神宮の舞樂が絶えてしまっているこ
とを嘆いて、仲間と話し合い、舞樂の再興
を熱田神宮の大宮司に願い、聞き入れられ
て、朝廷の樂人をも招いて舞樂を習い、「大
宮うつしの翌日の次日」に舞樂、振鉾、
萬歳樂（延喜樂）、太平樂、狛桿、陵王、納曾
利、そして長慶子が滞りなく行われ舞樂の再
興が成った。（注2）

これより以後は毎年、曲目を変えて舞樂が
行われることになつたという。（注2）この
年以前までは「大宮うつし」の年のみに舞樂
を行ふ慣わしだつたのかも知れない。

『舞樂之図』

左右の鼃太鼓揃える

文政6（1823）年の舞樂では、右方の
鼃太鼓を新調して舞樂が行われた。演目は万

歳樂、延喜樂、陵王、納曾利のほかに新たに
春庭花、白浜が加えられている。

このときの舞樂は、左右の鼃太鼓、東西の
樂所、高舞台と揃えられ、「威儀があつて重々
しい」ということで、絵師に頼んでこのとき
の模様を描かせ、現代に残されている。その
一枚が左図（注2）である。

西樂所（絵の右下）は現在と同じ位置だが、
東樂所は戦災で焼失し、現在は斎館が建てら
れている辺りにあつた。また江戸時代と現在
では本宮社殿が移動している。

江戸末より

江戸時代後期、東海地方の藩校では雅樂が
必須科目で、笙の樂家である豊原家の尾張の
門人は132人（注3）もいたという。そし
てこの頃名古屋には雅樂を「家の芸」とした
樂家は雅樂が復興した伊勢神宮に出仕し、尾
張藩の恒川家など「樂役」たちは熱田神宮に
出仕したという。（注3）

名古屋東照宮祭は江戸時代末には9台の山
車が繰り出され、総勢6800名を超える行
列が練り歩き、神前とお旅所での舞樂が行わ
れたという。明治に時代が代わって、「神幸
の儀」は一時中断されたが、舞樂は続行され
た。昭和20（1945）年は戦災を受けたが、
舞樂装束が残つたのでテント張りで舞樂を行
い、戦後も4月16日の舞樂は今日まで続いて
いる。（注5）

熱田神宮での舞樂も引き続き行われる。演
目は10の組み合わせがあり、10年毎に反復演
じられてきた。

昭和19（1944）年熱田神宮の舞樂神事
などを行う奉仕団体桐竹会が結成された。昭
和20（1945）年戦災にあり、25年までは
振鉾、散手、長慶子など2～3曲の奉仕とな
るが、それ以後は振鉾三節の他舞樂7曲と長
慶子を奉仕している。舞樂神事は、午前10時
半に神殿での祝詞奏上、舞樂目録の授与に続
いて舞樂演奏に入り午後3時頃に終了する。

創立70年を迎える桐竹会

戦後は桐竹会により舞樂が奉仕されてい
る。そこで桐竹会顧問の廣瀬祐氏（82歳）に



文政6（1823）年 左右の鼃太鼓も揃え盛大に行われた熱田神宮の舞樂
図の右下の西樂所は現在も使われている。『舞樂之図』文政9年より

お話を聞きしました。

——桐竹会の活動などを、お聞かせください。
「桐竹会が誕生したのは昭和19年で、演奏を行っていた熱田神宮の社家である東大路保儀氏を中心に関田神宮の奉仕団体として桐竹会が結成され、その後の舞楽や樂の奉仕を行なうことになりました。それから早70年を迎えます。

桐竹会の特徴は、愛知県に3つと、岐阜県に3つと合計6つの支部がありまして、日常のお稽古や活動は、それぞれの支部で行っています。

それと昭和28年頃から毎年、宮内庁樂部の蘭広茂先生、東儀和太郎先生他をお招きして稽古をし、昭和40年頃からは樂部より夏8月の5日間は各管の先生3名、2月に左舞、右舞の先生にお越し頂き、ご指導頂いております。



桐竹会顧問 広瀬祐氏
活動などについてお話を伺った

き、廣瀬氏の所属する岐阜支部で雅楽の演奏を行っている南宮大社も案内して頂いた。

奈良・平安時代の朝廷の男踏歌を今に伝える 踏歌神事

熱田神宮の神事として舞楽神事と共に奈良・平安時代の催しを今に伝えるのが、1月11に行われる踏歌神事である。

踏歌は奈良時代以前に唐より伝えられ、奈良・平安時代に宮廷で盛んに行われた。年の初めに大地を踏んで土地の精霊を鎮め、除厄と招福とを神に祈る意義を持つという。熱田神宮に伝わった男踏歌は宮廷では平安時代中期には廃れてしまつたが、熱田神宮では幸いにその古儀を残して伝えられている。

現在にまで伝わる熱田神宮の踏歌神事は、詩頭、舞人、陪從、高巾子などの役も平安時代末期までさかのぼり立証できるという。(注6)



熱田神宮 1月11日 踏歌神事



熱田神宮 1月11日 踏歌神事

『源氏物語』(初音・竹河)に描かれる

『源氏物語』の「初音」「竹河」に男踏歌の情景が描かれている。『源氏物語』が書かれた時代にはすでに男踏歌は廃れてしまつて、たが、紫式部は踏歌の様子を細かく描写している。現在熱田神宮で歌われている萬春樂や

代の男踏歌とほぼ同じで、歌う催馬樂もほとんど相違がない。読誦する頌文もおそらく言語「初音」「竹河」の中に書かれている。

また「初音」での「高巾子の世離れたさまことぶきの乱り」の高巾子の冠などについては熱田神宮の踏歌神事が、平安時代のものを使ふ手がかりになるという。(注6)

踏歌神事は毎年1月11日に行われますので足を運ばれてはいかがでしょうか。

今回、熱田神宮及び宝物館そして桐竹会の方々に貴重な史料を提供頂くなど、大変お世話になりました。

なお、写真は熱田神宮宮廷、熱田神宮宝物館よりご提供頂きました。
とても多くのことを学ばせて頂きました。
本当にありがとうございました。(鈴木治夫)

(注1)

『五重記』「雅楽だより」第3号参照

(注2)『熱田神宮史料』熱田神宮宮廷発行より「熱田神宮舞樂之図」

(注3)「雅楽だより」27号長谷義隆「千年の時を超えて~雅楽 名古屋の音楽の伏流」を参考した。

(注4) 文政9(1826)年をそれほど降らない時期に成立した『熱田祭祭典

奠年中行事絵巻』(蓬左文庫所蔵)

(注5)「日本雅樂会会報」第164号を参考した。

(注6)『熱田神宮の踏歌神事』熱田神宮宮廷発行を参考した。

雅楽いろいろQ & A(5)

古代の作曲者たち 芝 祐靖

Q-5

高麗樂など笛と簞篥が別の旋律（メロディー）を吹いていながら、うまく調和している曲などを聞くと、作曲された当時は、とても上手な人が多くいたからではないかと思います。雅樂の曲（古典）を作曲した（平安時代或いはそれ以前の）人は、どのような想いで作曲されたのでしょうか。先生の思いなどありましたらお教えください。

A-5

大変難しい内容のご質問なので、どのようにお答えしたものかと悩んでおります。

古代の作曲家たちの資料は全く持ち合わせておりませんが、楽曲演奏体験から感じたことを記しましょう。

ご質問の「高麗樂は優れた作曲家の作品」はまさにその通りです。高麗樂の「延四拍子」で演奏する楽曲は、ゆつたりとして長閑な旋律が流れます。そして貴徳、八仙、納曾利などの「急II唐拍子」で演奏する曲は、快活で実際に楽しい旋律で、演奏しながら嬉しくなります。千三百年前の朝鮮半島に、このような素晴らしい旋律が存在していたかと思うと驚嘆し、またよくぞ今日まで伝承出来たことと感動します。

ご質問のとおり、高麗樂のメロディーと簞篥のメロディーが単旋律（モノフォニー）ではなく、それぞれのメロディーラインを奏で、絡み合い（ボリフオニー）ながら実に美しい音楽を醸し出していることに驚かされます。

千三百年前に、本当にこんなことが出来たのでしょうか……やつかみ半分推理してみました。

当然、高麗樂にも手が加えられ、高麗樂の旋律の中に和風旋律を簞篥で吹かせました。この大胆な試みは大成功し、絶妙な音楽が生まれました。高麗樂の旋律に簞篥音楽が加わったことで、高麗樂が日本人にも聞き易いものとなり、今日までの長い伝承を可能にしたとの要因だと思います。

それにしても平安時代中期の我が国の音楽人、特に簞篥奏者のレベルの高さはまことに驚嘆いたします。



「簞篥」

日本書紀によると6世紀半ばに三韓樂（高句麗樂・百濟樂・新羅樂）の一つ、百濟樂の楽人が日本に来たとあります。また7世紀の始め（612年）に聖德太子が「三宝供養」のため百濟の伎樂師、味摩之を呼んでいます。



「笙」

この伎樂音楽は、横笛・細腰鼓・銅拍子・鉦盤という編成で、メロディー楽器は横笛だけです。この編成から推察しますと、三韓樂時代の音楽（高麗樂）も、ほぼ同様の楽器編成で、メロディー楽器は高麗笛のみであったと思われます。（音楽を学ぶものは大勢いるが、音楽の全て

8世紀初頭に我が国の太政官は雅樂寮に大唐樂、高麗樂、伎樂の師匠を招き、若者を集め音楽や舞の教習を始めました。この機に多くの楽器が渡来し、また音楽家たちの海外研修も盛んになりました。そして9世紀半ば、

外国文化の和風化の波に乗って音楽にも改革がなされました。20種類ほどあつた唐樂の楽器を日本人の趣向に合つた8種類に減らし、そして唐代の陽旋律の中に、簞篥で日本の和風旋律を吹かせる、といった奇想天外な改革がおこなわれました。

当然、高麗樂にも手が加えられ、高麗樂の旋律の中に和風旋律を簞篥で吹かせました。この大胆な試みは大成功し、絶妙な音楽が生まれました。高麗樂の旋律に簞篥音楽が加わったことで、高麗樂が日本人にも聞き易いものとなり、今日までの長い伝承を可能にしたとの要因だと思います。

それにしても平安時代中期の我が国の音楽人、特に簞篥奏者のレベルの高さはまことに驚嘆いたします。

【エピローグ】

9世紀後半からの楽制改革（和風化）に成功して、多くの貴紳たちに好まれるようになつた雅樂は、演奏形式の固定化と楽曲継承保存に重きがおかれて、新曲創造への気運はまったく削がれてしまい一千年の時が経ちました。しかし、これから雅樂の将来を見つめたとき、伝統継承と芸術創造の二つの歯車がかみ合うべきと考えます。



信西古事記(写本)芝家裁

を知るものは極めて少ない」とありますので、相当な数の人々が音楽に憧れていたことが伺えます。

【残念！名曲は外国製】

ご質問の方もお気付きのことと思いますが、雅樂譜に記された楽曲には傑作から凡作までいろいろあります。名曲の誉れ高い楽曲には春鶯囀（しゅんりょうせん）、蘭陵王（らんりょうおう）、胡飲酒（ごひんじゅ）、萬歳樂（まんざいがく）、甘州（かんしゅう）、林歌（りんか）、陪臚（ばいり）、蘇合香（そごくこう）、輪台（りんたい）、青海波（せいがは）、蘇莫者（そまくしゃ）などが挙げられます。これらはすべて天竺や中国で作曲されたものです。我が国でも平安時代には数人の作曲家がいて、多くの新曲が作られたようですが、残念ながら唐樂・高麗樂と比較できるような独創的な楽曲は生れていないようです。

うどんの 鶴殿ヨシ原に高速道路が 雅楽の危機

筆築のリード（蘆舌）の材料は、鶴殿のヨシ原で育てられるヨシを材料にしています。この鶴殿ヨシ原に新名神高速道路の建設が、昨年4月に閣議決定されました。

雅楽関係者は、高速道路がヨシ原を横断すると「鶴殿のヨシは絶滅する」「筆築の音色が変わり千年以上伝えられてきた雅楽を私たちの代で途絶えさせてしまうことになる」「後世に雅楽を伝えるためになんとしてもヨシ原を守ろう」と「鶴殿のヨシを守る」ための声明を出すと同時に、署名活動も始めました。

署名6万筆集まる

国土交通省へ提出

署名活動をすすめている「SAVE TH E 鶴殿ヨシ原」代表の中川英男氏によると

「1月末現在6万筆の署名が集まりました。

国土交通省に提出する予定です。今後も7月末までに10万筆を目指し署名を続けていきます」とのことです、雅楽協議会に寄せていました。

いた署名約1万筆余も一緒にして国土交通省に提出の予定です。

NEXCO西日本に 検討会設置

新名神高速道路の設計や工事の進め方などを担当するのが、国土交通省より事業許可を受けた西日本高速道路株式会社関西支社（NEXCO西日本）です。NEXCO西日本は昨年の秋までは、既存の関係機関の意見を聞いて高速公路建設の準備を進める予定でした

た。しかし雅楽関係者・文化人など多くの方々より、鶴殿のヨシの保存の重要性の働きかけもあり、NEXCO西日本は、鶴殿ヨシ原の文化的・歴史的重要性を鑑みて鶴殿ヨシ原の筆築のリードに使用できるヨシの保存のための検討会の設置を決めました。

検討会は5名の委員、8名のオブザーバー

及び事業者（NEXCO西日本）からなり、

委員は、鶴殿ヨシ原を守り続けてきた小山弘道氏の他 植物、地下水、橋梁などの研究者や専門家で構成され、オブザーバーは宮内庁式部職楽部、鶴殿のヨシ原保存会、東儀秀樹氏などです。

（この検討会の設立趣旨の抜粋、及び委員、オブザーバーを左に載せます。）

第1回 検討会

1月10日 高槻市民会館で

この検討会の第1回の会議が、1月10日午後1時から3時頃まで高槻市民会館会議室で



1月10日第1回検討会 出席委員4名、オブザーバー7名、事業者4名マイクで挨拶するNEXCO西日本関西支社芝村支社長、左端宮内庁樂部池邊五郎樂長（写真NEXCO西日本）

以下簡単に検討会の内容をメモします。
まずNEXCO西日本からの挨拶に続き、秀樹氏の文章の入った「雅楽だより」32号も配布されました。（当日配布された資料及び検討会の概要是NEXCO西日本のホームページで閲覧できます）

以下簡単に検討会の内容をメモします。
まずNEXCO西日本からの挨拶に続き、秀樹氏の文章の入った「雅楽だより」32号も配布されました。（当日配布された資料及び検討会の概要是NEXCO西日本のホームページで閲覧できます）

新名神高速道路 鶴殿ヨシ原の環境保全に関する検討会 構成員

委員 鎌田敏郎	大阪大学大学院	橋梁
委員 小山弘道	鶴殿ヨシ原研究所	鶴殿保全
委員 中瀬 烈	兵庫県立大学	自然科学
委員 西垣 誠	岡山大学	地下水
委員 布谷知夫	三重県立博物館	植物学

オブザーバー 宮内庁式部職楽部
オブザーバー 土木技術研究所 淀川河川事務所
オブザーバー 高槻市
オブザーバー 鶴殿のヨシ原保存会
オブザーバー 上牧実行組合
オブザーバー 東儀秀樹 雅楽師

事務局 西日本高速道路株式会社 関西支社
（敬称略、委員は五十音順）

トンネルにして通すと高槻JCへの勾配がきつくなり建設できない」と答えた。

次の「重要文化財「雅楽」と簾簾」の説明（配布資料4）では、NEXCO西日本よりの説明の後、オブザーバーの宮内庁式部職楽部楽長池邊五郎氏が補足説明をし「雅楽は、宮中での祭祀でも演奏されており重要なものです。特に簾簾は大切な樂器です。これ以上ヨシが悪くならないようお願いしたい」とヨシ保全の意義深さと雅楽の大切さを樂部楽長の立場から直接話された。樂長が直接話されたことは、事業者であるNEXCO西日本の方々の心に深く刻み込まれた様子であった。

次の「鵜殿ヨシ原の保全活動」（配布資料6）では、鵜殿ヨシ原研究所長小山弘道氏が説明された。小山氏は「高速道路の工事が始まるところ、事務局より、『植物ワーキンググループ（WG）』の設置が提案された。委員の方から「日本の文化がつぶれるかもしれない」という課題などの生育などに関する現状調査が中心になることから「植物ワーキンググループ（WG）」の調査を」と意見が出され、植物を専門とする小山委員、中瀬委員、布谷委員を当面のメンバーとし、様々な専門家に逐次入っていた。だきすすめる事になった。

「植物ワーキンググループ（WG）」は、2月にはヨシの生育調査、鵜殿ヨシ原の測量、地下水の調査などを具体的にすすめている。

第1回検討会の後、検討会委員、オブザーバー、NEXCO西日本職員などが車に分乗して鵜殿ヨシ原に移動し、長靴に履き替え、高速道路建設の予定地、高压電線鉄塔下、川沿いの道などを現地調査し、午後5時過ぎに現地で解散した。

次回の検討会は、4月以降に開催予定とのことである。

ヨシ原焼きについての説明を守りましょう」と説得力ある発言をされた。次の「ヨシ原焼きについて」は、鵜殿のヨシ原保存会会長内本隆譲氏より説明が行われ

た。内本氏の発言で特に印象に残ったのは、ヨシ原焼きが雨のため出来なかつた昨年のヨシ（今年採取）と、昨年採取のヨシとを示されて、「今年のヨシは、ヨシ原焼きが雨で中止となり、虫がついて黒くなっている」とヨシ原焼きの意義について説明したことだ。



1月10日、検討会を終えて鵜殿ヨシ原へ移動し現地調査する委員、オブザーバーの方々。

ます。

どうしても私どもの思いといたしまして訴えたいことがあります。それも含めて、ただ今から少しばかり意見を述べさせていただきたいと思います。

まず、私どもはヨシの採取と加工に従事する当事者と致しまして、今回の新名神高速道路が簾簾のヨシの群生する箇所を横断するという計画はまことに遺憾であり、またこの計画に対しても困惑しておる実態でございます。

ではヨシ原焼きについての本題に入ります。第一に、なぜヨシ原焼きが必要なのかといふ問題でございます。良質なヨシを育てるには、単にヨシ原の自然環境、例えば小山先生からご説明のあつた土地の問題、つまり土壤の温度とか、あるいは降水量、湿度、風速、気候なども含めますが、これだけでは十分ではありません。この良質のヨシを育てるのに、どうしても人の手を加えてあげてヨシの生育を応援してやることも必要でございま

す。

そのため、私どもとしましては、毎年のヨシの生育を助けるために、ヨシ刈り、その通行止めにできるかどうかなどが問われています。だがはたしてヨシ原焼きの日に、通行止めにできるかどうかなどが問われています。

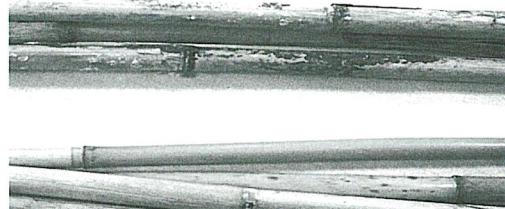
そのために、私どもとしましては、毎年のヨシの生育を助けるために、ヨシ刈り、その通行止めにできるかどうかなどが問われています。

ヨシを示しながら報道陣に説明する内本氏。1月10日高槻市民会館ロビー



ヨシを示しながら報道陣に説明する内本氏。1月10日高槻市民会館ロビー

これから雑草を駆除する。たゞいまからちよつと現物を見ていただきます。去年採れたヨシ、今年採れたヨシ、こんなに違うのかといふほど歴然と出でおります。回しますから見てください。



検討会の委員の方々などに回覧されたヨシ
上、今年採取の虫が食ったヨシ 下、昨年採取のヨシ

(写真右) 虫がようけついてあるのが今年、虫についていないのが去年のヨシであります。もう歴然と違います。(ヨシを回す)

今年のヨシはカイガラムシがついております。特に、葉っぱの下のほうを見ていただいたらいいかと思います。これを何とか寄せさせないような対策が大事であります。このた導水路をつけて水を補給する。あるいはまた切り下げ工事、いろいろやつてもらつておりますけれども、これだけでは決してこういうことを防ぐことはできない。少なくとも、100年以上前からヨシ原焼きは続いておる。

我々の先祖、ひよつとしたら江戸時代にさかのぼるかもわかりません。ヨシを刈り取つた後に、ヨシ原全体を焼く。全体を焼かんと意味がありません。そうしないと、虫が移り

ます。このことによつて害虫はヨシに寄生しなくなり、また雑草の駆除にも役立ちます。また、不慮の火災発生を防止することがであります。去年は雨も悪い影響が出るようであります。昨年は雨のために焼きませんでしたので、皆さんに今までもらつているような実態でございます。

このように良質のヨシを確保するには、ヨシ原焼きは必須条件と言つて過言ではないと思います。ヨシ原を知つておられる植物学者は、異口同音にこのようにおっしゃつておられます。

第二に、ヨシ原焼きの今日までの経緯について少しばかり説明申し上げます。

先ほど申し上げましたように、ヨシ原焼きの起源については不詳でございます。定かではございませんが、少なくとも100年以上さかのぼることは間違いない。それ以前に行われていたかもわかりません。

近年では、昭和44(1969)年に実はヨシ原焼きの最中に道鶴町にある一軒の家が全焼いたしました。灰が火のまま飛んできまして、長いものでございますから、そこから火事がいつて、昭和45(1970)年から昭和49(1974)年までは中止いたしました。

ところが、昭和48(1973)年頃から、ここにおられます小山先生、その恩師でござります京都大学農学部の堀田教授の指導もいただき、また市のご協力をいただきながら調査に入りました。その結果、ヨシ原が以前と比べてヨシの生育が悪くなつておる。一方、オギであるとかのぼるかもわかりません。ヨシを刈り取つた後に、ヨシ原全体を焼く。全体を焼かんと意味がありません。そうしないと、虫が移り

育が悪くなつておる。一方、オギであるとか

あるいはまたセイタカアワダチソウ、あるいはカナムグラ等の雑草が繁茂しかけておると聞きました。そこで、これではいかんということで、昭和50(1975)年からこのヨシ原焼きを実施しようということになつたわけでございます。

このヨシが衰退いたしましたのは、先ほど国交省ご自身がお認めになつておりますように、昭和40年代の淀川本川の大改修、それから上流につくられたダムの建設に起因する冠水頻度の減少と、ヨシ原そのものの地盤の乾燥化と陸生化、これが最大の原因であることは、もう明白白々であります。私たちは、こ

んなにもヨシが減り、質が落ちた最たる原因

は、国交省さんにあるというふうに断じてお

ります。

治水対策は、人間の生命・財産にとつて最も重要なことでござりますけども、同時に良好なヨシの自然環境を確保してやるということも大切なことでございます。当時の国交省さんには、ヨシ原の自然環境には全く配慮がなされておりませんでした。そのことは先ほど申し上げたように、国交省さんも先ほどご説明があつて自認されているところであります。

さて、話は戻りますが、昭和50(1975)

年からは、市、地元、消防団、その他の方々

の総勢100人弱の人々よつて再開されま

して、その後、平成18(2006)年と昨

(2012)年の2回、雨のために中止にな

りましたけれども、それ以外はずつと続けて

けていく覚悟でございます。

最後に、申すまでもなく先ほど説明があり

ましたように、平成19(2007)年にユネスコの世界無形文化遺産というようなことの指定を受けております。日本古来の雅楽の笙、筆築、竈笛のこの3種のうち主旋律と呼ばれるのは、このヨシの、今ここにございます、このほうからも鶴殿に限ると。これは古來、文献にも出ておるとおりでございます。

そういうことは、小山先生がおっしゃつたのは、このヨシの、今ここにございます、このほうからも鶴殿に限ると。これは古來、

筆築、竈笛のこの3種のうち主旋律と呼ばれるのは、このヨシの、今ここにございます、

このほうからも鶴殿に限ると。これは古來、

つ賢明なるご審議を心から期待を申し上げまして、私の説明を終わります。ありがとうございました。

古楽書・古楽譜でたゞる

雅楽の歴史（13）

『體源鈔』とその時代（5）

楽の失錯のこと

東京学芸大学准教授

遠藤徹

ご承知の通り、古楽書には樂をめぐる様々な逸話が書き留められています。名人が語つた樂の奥義、稽古の際に心得るべきこと、先人の振る舞いに関する美談、秘曲の伝授をめぐる話、名器をめぐる話、失敗談、等々です。豊原統秋が著した『體源鈔』ももちろんその例外ではなく、同時代の話はあまり多くありませんが、『教訓抄』『続教訓抄』などをはじめ、先行する古楽書から種々の逸話を拾い集めて収録されています。

『體源鈔』の特徴は、それらを単に引き載せるだけではなく、当時の樂の状況をふまえてコメントを加えたり、逸話の取捨を行ったりしているところあります。今回はそれらの中から巻十の「樂失錯事」という項に注目してみます。失錯（失敗談）は後人の教訓になることから、一般に古楽書には数多くみることができます。著名なのは井戸次官秋宗の話でしようか。秋宗は大神惟季等と同時代の平安後期の笛の名手でしたが、臆病のため、人が三人集まるとき、一曲も麗しく吹くことができなかつたといいます。白河院の野行幸の

船樂に召される栄誉を得たときも、臆してしまい河に笛を落としてしまつたそうです。秋宗はこうした失敗談によつて後世に名が残つているときえいえます。

しかし『體源鈔』では「樂失錯事、私云

此段は之を略す」として、こうした先人の失敗談の項を設けることを統秋は拒んでいます。

そして、その理由を「大略、古人皆、失錯を載す。ややもすれば人の上をさ（偏）みする心になり侍（はべる）なり。仍つて、之を略す。」

と、失敗談はややもすると人様の身の上をみさげる心を生じてしまうからと述べます。統秋の先祖の量秋（かずあき）の自筆の伝書にも古今の失錯を吟味したものがあつたそうですが、これらについても「末代、心得うべき事を指南するとは思はず。只（ただ）人の難を申（もうし）あらはすに成ぬ。無用なり。」とします。

そして統秋自身の失錯に対する考え方を次のように述べます。「稽古をろかなるもの、常にある事と思ひてたしな（嗜）めば、をのつ（自）から一身になきことなり。堪能の者の失錯は、人のゆる（許）すなれば、又くる（苦）しからず。」（稽古が疎そかな者には常に失錯があり得ると思つて、心がけて修練すれば、自ずと自身にはおきないものである。一方、堪能の者の失錯は、他人の認める芸なので、それはそれでまた構わないものである。）それゆえに他人の失錯に関する逸話などというものは書物に書き残す必要はないということになります。

皆さんはいかが思われますか。

「雅楽が大好き」笙YUUU：

これまでに4枚のCDを発表

「笙YUUU」（本名：高橋由宇、28歳）さん

は、ウイリアムズ症候群という障がいを持ちながらも自作曲も含む4組のアルバムを発表し、仙台を中心に国内外で主に笙のソロ演奏活動をしている。（由宇さんとお父さんの高橋盛さんからお話しをお伺いました）

由宇さんは、3歳ぐらいの時、TVからたまに流れる雅楽の音色に惹かれたとのこと。見ていた番組は幼児らしからぬ皇室アルバム、皇室ご一家だった。古風なものが好きな子供だな」と両親は思つたそうです。

「雅楽が好きだ」と強く意識的に本人の口から言つたのは、小学校特殊学級3年生の授業の最中のこと、担任の先生に「雅楽が天から聞こえて来る」と言つたが、先生の耳には聞こえなかつた。そこで先生と一緒に校舎の3階まで行くと6年生が音楽の授業で雅楽のCDを聞いていた。下の階にいた由宇さんはその音が聞えていたのだ。そして、その時

芳しくない中、少しづつ好きな事をしている事で元気を取り戻していった。一年間、竹駒神社の上出久尊先生に笙の手ほどきを受け、以後独学で殆どのCD、ビデオ、書籍を手元に置き吸収していった。仙台市内の養護学校高等部を卒業後は一時通所施設にも通いながら演奏活動をし、以後、仙台発の笙演奏家として国内外で数多くの演奏をし、NHK「おはよう日本」全国放送でも取り上げられた。

レパートリーは雅楽曲ばかりではなく、童謡、抒情詩、ポピュラー、クラシック、ジャズと幅広いジャンルを耳で聞き覚えて笙に置き換えて転調をし、演奏するというスタイルを取つていて、特に楽譜は無く五線譜も読めない

はつきりと「雅楽が大好き」と初めて先生に言つた。しかしその時は、両親は特に雅楽をさせようとは思わなかつたという。

小さい時から病院通いをして、患つていた知群という2万人に一人発症する遺伝子病だと解つたのは小学校6年生の時だった。その後中学校1年の時、半年間入院して、生死を彷徨いながら心臓の手術を受けた。

両親はこんな事になるなら本人の好きな事、やりたい事をさせて、それで終わる命ならそれもしかたのない事だと思い、本人に「何が欲しい？なんでも好きな物買ってあげる」と聞いたら「じゃ、笙買つて！」と。



笙を手にする笙YUUU氏

2010年より、宮内庁楽部の松井北斗氏に笙を師事している。

2年前の震災で仙台の自宅も被害に遭われ地すべりや自宅が傾いて半壊となつた。傾きは直して住める状態にしたが、敷地の地すべりはまだそのまま手付かずの状態だそうだ。因みに石巻市にあつた両親の実家は、両方共津波で全て流され門扉だけが残つた。先人が石碑に刻んであつた「地震が来たら津波の用心」や「此處から下に家を建てるな」と言われた教えは、今日も脳々と生きていてこれからも伝えていくべき事だ」と今回の震災についてしみじみと話されていたのが印象的でした。

今までに発表されたCDは以下です。



『古木』2枚組 3500円

春～夏までの主な雅楽演奏会など

男山桜まつり	岩清水八幡宮（京都）
桃花祭	厳島神社（広島）
4月3日（水）午後2時	

○雅楽公演	管絃 壱越調と平調（東京）
3月2日（土）午後2時	一般4500円
国立劇場小劇場	

壹越調	壹越調調子 菩薩破 朗詠 東岸
蘭陵王 武徳樂／平調 平調調子 催馬樂	伊勢海 林歌 春楊柳 越殿樂
出演 宮内庁式部職楽部	

**前号に掲載できなかつた
演奏会など**

舞楽 賀殿・還城楽 納曾利 演奏 平安雅楽会 開催 Tel 075-981-3001
京都御所春一般公開舞樂（京都）
舞楽 賀殿・還城樂 演奏 平安雅楽会 開催 Tel 0829-44-2020
名古屋東照宮 大祭舞樂（名古屋）
舞樂 振鉾 万歳樂 延喜樂 桃李花 蘇利古 振鉾 落蹲 長慶子 長慶子 開催 Tel 0596-24-1111
第9回雅樂道友会 「たけの音」（東京）
舞樂 振鉾 甘州 登天樂 春庭花 狐梓 陵王 長慶子 演奏 東照宮雅楽部 開催 Tel 03-3379-5511
お花見雅樂演奏会（大阪）
香取市佐原は、先の震災で液状化により大きな被害を受けた。復興を目指してのひな祭りで佐原の中心を流れる小野川で船樂。 演奏 香取雅楽会 開催 Tel 0478-52-6675
花見の宴 玉前神社境内（千葉）
管絃 催馬樂 安名道 双調 酒胡子 賀殿急 盤渉調 蘇莫者 序破（舞立） 陵王 仁和樂 演奏 なんば雅楽会 開催 Tel 03-3783-2371
新潟総踊り祭（新潟）
管絃 黄鐘調音取 海青樂 越殿樂 陪臈 舞樂 陵王 仁和樂 演奏 玉前雅楽会 開催 Tel 025-211-2285
梅宮大社 さくら祭り「雅樂祭」（京都）
りゅーとびあ新潟芸術文化会館 平調 越殿樂 陪臈 舞樂 陵王 演奏 雅樂道友会 開催 Tel 03-3783-2371
新潟總踊り祭実行委員会事務局
舞樂 還城樂（左） 演奏 玉前雅楽会 開催 Tel 0475-42-2711
田祭り 鶴見神社（神奈川）
管絃 承和樂 仁和樂 白濱 演奏 横浜雅楽会 開催 Tel 045-531-0150
大和舞・東遊奉納 春日大社（奈良）
大和舞（大和舞の中の前歌・櫻酒を昨年に復興し含めて演奏） 東遊 演奏 热田神宮桐竹会 開催 Tel 0742-22-7788
舞樂神事 热田神宮（名古屋）
舞樂 還城樂 演奏 平安雅楽会 開催 Tel 029-531-0150
西宮神社 神樂祭（兵庫）
舞樂 納曾利 萬歳樂 菩薩 獅子 迦陵頻 演奏 洋遊会 開催 Tel 090-8261-4341
4月22日（月）午後1時
蘇利古 萬歳樂 菩薩 獅子 迦陵頻 演奏 洋遊会 開催 Tel 090-8261-4341
卯之葉神事 住吉大社（大阪）
卯之葉神事 住吉大社（大阪） 開催 Tel 052-671-4151
5月1日（水）午後2時より石舞台にて
舞樂 振鉾 桃李花 綾切 陪臈 長慶子 演奏 天王寺楽所雅亮会 開催 Tel 06-6672-0753
5月3日（金）午前1時
蘇利古 萬歳樂 菩薩 獅子 迦陵頻 演奏 曲目未定 開催 Tel 06-6672-0753
5月5日（日）午後1時半
蘇利古 萬歳樂 菩薩 獅子 迦陵頻 演奏 曲目未定 開催 Tel 06-6672-0753
5月6日（月）午前11時
蘇利古 萬歳樂 菩薩 獅子 迦陵頻 演奏 曲目未定 開催 Tel 06-6672-0753
5月10日（金）午前11時
蘇利古 萬歳樂 菩薩 獅子 迦陵頻 演奏 曲目未定 開催 Tel 06-6672-0753

5月5日(日)	午前10時 りんごの庭 無料 舞楽 蘭陵王 午後1時 万葉植物園 入園料大人500円 管絃 双調音取 蝶々頻(かづらひん) 胡蝶 春庭花 舞楽 長慶子 演奏 南都樂所 貴徳 問合せ Tel 0742-22-7788	出演 女人舞楽原笙会 問合せ Tel 0742-22-0315 舞楽 曲目未定 演奏 東京樂所	舞樂 振鉢 胡蝶 春鶯囀 央宮樂 境内(きょうぐうのうち) 境内(きょうぐうのうち) 陵王 納曾利 主催 多度雅樂会 問合せ Tel 0594-48-3484
5月19日(日)	午後2時 嵐山渡月橋付近 舞樂 蝶々頻(かづらひん) 陵王 出演 女人舞楽原笙会 問合せ Tel 0797-23-1886	舞樂 振鉢 胡蝶 春鶯囀 央宮樂 境内(きょうぐうのうち) 境内(きょうぐうのうち) 陵王 納曾利 主催 多度雅樂会 問合せ Tel 0594-48-3484	舞樂 振鉢 胡蝶 春鶯囀 央宮樂 境内(きょうぐうのうち) 境内(きょうぐうのうち) 陵王 納曾利 主催 多度雅樂会 問合せ Tel 0594-48-3484
5月21日(火)	午後6時30分 高崎シティギヤラリー 前売2000円 当日2500円 管絃 朗詠 池冷 盤渉調 劍氣禪脱 舞樂 蘭陵王 仁和樂 演出 楽格会、贊助 雅樂道友会 チケット販売 Tel 027-328-5050 (高崎シティギヤラリー)	5月21日(火) 午後2時 嵐山渡月橋付近 舞樂 曲目未定 演出 東京樂所	5月21日(火) 午後2時 嵐山渡月橋付近 舞樂 曲目未定 演出 東京樂所
5月25日(土)	午後2時 漏刻祭 近江神宮(滋賀) 前売2000円 当日2500円 管絃 舞樂 胡飲酒 蘇利古 舞樂 奉納 蘭陵王 納曾利 演出 平安雅樂会 問合せ Tel 027-352-0836 (高崎シティギヤラリー)	6月10日(月) 午前11時 漏刻祭 近江神宮(滋賀) 前売2000円 当日2500円 管絃 舞樂 胡飲酒 蘇利古 舞樂 奉納 蘭陵王 納曾利 演出 平安雅樂会 問合せ Tel 027-352-0836 (高崎シティギヤラリー)	6月10日(月) 午前11時 漏刻祭 近江神宮(滋賀) 前売2000円 当日2500円 管絃 舞樂 胡飲酒 蘇利古 舞樂 奉納 蘭陵王 納曾利 演出 平安雅樂会 問合せ Tel 027-352-0836 (高崎シティギヤラリー)
6月15日(土)	午前10時 青葉まつり 高野山金剛峯寺大広間(和歌山) 舞樂 還城樂(左) ほか 演奏 神奈川雅樂部 問合せ Tel 045-931-1714	6月15日(土) 午前10時 青葉まつり 高野山金剛峯寺大広間(和歌山) 舞樂 還城樂(左) ほか 演奏 神奈川雅樂部 問合せ Tel 045-931-1714	6月15日(土) 午前10時 青葉まつり 高野山金剛峯寺大広間(和歌山) 舞樂 還城樂(左) ほか 演奏 神奈川雅樂部 問合せ Tel 045-931-1714
6月22日(土)	午後6時30分 紀尾井ホール 指定席5000円 自由席4000円 管絃 催馬樂 安名尊 陵王 武德樂 舞樂 散手 貴徳 問合せ Tel 050-3522-2310	6月22日(土) 午後6時30分 國立劇場チケットセンター 東京オペラシティコンサートホール 管絃 平調音取 秋燕子(さくえんし) 皇馨(こうねい) 一具(いっこく) 舞樂 破踏(はたどり) 〔以上芭祐靖補曲(ばすけいしゆく)、急(いそ) 問合せ Tel 050-3522-2310	6月22日(土) 午後6時30分 國立劇場チケットセンター 東京オペラシティコンサートホール 管絃 平調音取 秋燕子(さくえんし) 皇馨(こうねい) 一具(いっこく) 舞樂 破踏(はたどり) 〔以上芭祐靖補曲(ばすけいしゆく)、急(いそ) 問合せ Tel 050-3522-2310
7月7日(日)	午後4時 東京樂所 第3回公演 七夕の雅樂(東京) チケットプレゼント有り S席5000円 A席4000円 東京オペラシティコンサートホール 管絃 平調音取 秋燕子(さくえんし) 皇馨(こうねい) 一具(いっこく) 舞樂 破踏(はたどり) 〔以上芭祐靖補曲(ばすけいしゆく)、急(いそ) 越(こ)の大樂残樂(おほらがくざんらく) 三(さん)返(かみ) 西(おひし)王(おう)樂(らく) 舞樂 桃李花(とうりいか) 還城樂(かんじやく) (右) 問合せ Tel 03-3560-3010	7月7日(日) 午後4時 東京樂所 第3回公演 七夕の雅樂(東京) チケットプレゼント有り S席5000円 A席4000円 東京オペラシティコンサートホール 管絃 平調音取 秋燕子(さくえんし) 皇馨(こうねい) 一具(いっこく) 舞樂 破踏(はたどり) 〔以上芭祐靖補曲(ばすけいしゆく)、急(いそ) 越(こ)の大樂残樂(おほらがくざんらく) 三(さん)返(かみ) 西(おひし)王(おう)樂(らく) 舞樂 桃李花(とうりいか) 還城樂(かんじやく) (右) 問合せ Tel 03-3560-3010	7月7日(日) 午後4時 東京樂所 第3回公演 七夕の雅樂(東京) チケットプレゼント有り S席5000円 A席4000円 東京オペラシティコンサートホール 管絃 平調音取 秋燕子(さくえんし) 皇馨(こうねい) 一具(いっこく) 舞樂 破踏(はたどり) 〔以上芭祐靖補曲(ばすけいしゆく)、急(いそ) 越(こ)の大樂残樂(おほらがくざんらく) 三(さん)返(かみ) 西(おひし)王(おう)樂(らく) 舞樂 桃李花(とうりいか) 還城樂(かんじやく) (右) 問合せ Tel 03-3560-3010
6月28日(金)	午後7時 伊左治直 作曲「紫御殿物語」(委嘱初演) じようはな座(南砺市城端伝統芸能会館)	6月29日(土) 国立劇場小劇場 午後2時 一般2500円 学生1800円 管絃 胡飲酒序・破 菩薩破 朗詠 池冷 舞樂 障막(ぼうまく) 演奏 博雅会、ゲスト 雅城会 問合せ Tel 080-2415-2347	6月29日(土) 国立劇場小劇場 午後2時 一般2500円 学生1800円 管絃 胡飲酒序・破 菩薩破 朗詠 池冷 舞樂 障막(ぼうまく) 演奏 博雅会、ゲスト 雅城会 問合せ Tel 080-2415-2347
6月2日(日)	昼の部 午後2時 夜の部 午後6時開演 3000円(チケットぴあ・劇場窓口) 国立文樂劇場(大阪)	6月2日(日) 午後2時 夜の部 午後6時開演 3000円(チケットぴあ・劇場窓口) 国立文樂劇場(大阪)	6月2日(日) 午後2時 夜の部 午後6時開演 3000円(チケットぴあ・劇場窓口) 国立文樂劇場(大阪)
6月29日(土)	午後2時 一般2500円 学生1800円 管絃 胡飲酒序・破 菩薩破 朗詠 池冷 舞樂 障막(ぼうまく) 演奏 博雅会、ゲスト 雅城会 問合せ Tel 080-2415-2347	6月29日(土) 国立劇場小劇場 午後2時 一般2500円 学生1800円 管絃 胡飲酒序・破 菩薩破 朗詠 池冷 舞樂 障막(ぼうまく) 演奏 博雅会、ゲスト 雅城会 問合せ Tel 080-2415-2347	6月29日(土) 国立劇場小劇場 午後2時 一般2500円 学生1800円 管絃 胡飲酒序・破 菩薩破 朗詠 池冷 舞樂 障막(ぼうまく) 演奏 博雅会、ゲスト 雅城会 問合せ Tel 080-2415-2347
6月2日(日)	チケットプレゼント有り 問合せ・予約 Tel 03-3226-9755 Fax 03-3226-9882 東京コンサーツ 大阪樂所第31回記念雅樂演奏会(大阪)	6月2日(日) チケットプレゼント有り 問合せ・予約 Tel 03-3226-9755 Fax 03-3226-9882 東京コンサーツ 大阪樂所第31回記念雅樂演奏会(大阪)	6月2日(日) チケットプレゼント有り 問合せ・予約 Tel 03-3226-9755 Fax 03-3226-9882 東京コンサーツ 大阪樂所第31回記念雅樂演奏会(大阪)

管絃 平調音取 難徳
舞樂 白瀬 納曾利 演奏 横浜雅樂会
問合せ TEL 045-531-0150

★★読者チケットプレゼント★★

☆大阪美術所 6月2日 国立文楽劇場(大阪)

昼・夜各5名様ご招待

5月19日必着 招待券を送付

☆博雅会・雅城会 6月28日 じょうはな座
5名様ご招待 6月14日必着 招待券送付

☆国立劇場 6月29日 小劇場(東京)
2時・5時各2名様ご招待 6月15日必着 招待券送付

応募資格・「雅楽だより」定期購読者
応募方法・はがきに希望の演奏会、住所、氏名、
電話番号など必要事項を記入。

応募先・〒188-0013
東京都西東京市向台町6-12-6 鈴木方

「雅楽だより」編集部
応募資格・「雅楽だより」定期購読者
応募方法・はがきに希望の演奏会、住所、氏名、
電話番号など必要事項を記入。

応募先・〒188-0013
東京都西東京市向台町6-12-6 鈴木方

新聞・テレビ・新刊・CDなど

○1月5日産経新聞

「新名神建設に住民反発」と鵜殿の検討会
開催などについて鵜殿ヨシ原研究所小山弘
道所長、東儀秀樹氏のインタビューなども
報道。

○2月5日関西テレビニュースアンカー

「鵜殿ヨシ原 “大ピンチ”」と、約13分間、
鵜殿ヨシ原の状況と1月10日の検討会の映
像を放映。

○鵜殿のヨシ原焼き 無事終る

鵜殿のヨシ原焼きは、2月24日(日)大勢
人の見守る中無事に行われた。(右下写
真)

○2月25日朝日新聞大阪版
「燃えても良し」と鵜殿のヨシ原焼きにつ
いて報道。

●



昨年の鵜殿のヨシ原焼きは、雨のため中止されましたが、
今年は2月24日(日)に無事行われました。

写真提供 鵜殿ヨシ原研究所

した」と中村仁美氏はジャケットに記して
いる。2940円

○新刊『雅楽を知る事典』遠藤徹著

東京堂出版から3月に発行
四六判380頁 本体価格3500円

購入申込 TEL 03-5902-7281

この本は、雅
楽の伝来と日
本での発展の
歴史、また楽
曲・舞・演奏、
楽器の説明と

紹介、さらに

その背景と理論なども読みながら学べる。
雅楽を通して日本文化の歴史・文化を理解

し、学ぶことができる入門的事典。著者の
遠藤徹氏には、本紙に「古楽譜・古楽書で

たどる雅楽の歴史」を連載していただいて
います。



なお「雅楽だより」12号に平岩弓枝氏より
原稿を寄せていただいている。

○芝祐靖先生へ質問を

芝先生へご質問がありましたらメールかFaxで
お寄せください。お待ちしています。「雅楽
いろいろQ&A」のコーナーでお答えしてい
ただいています。

○「雅楽だより」
購読料一年(4回発行)千五百円。(送料込)
郵便振込用紙に住所、氏名をご記入のうえ、
「口座番号」00140-5-614032
【加入者名】雅楽協議会
【購読・継続 申し込み方法】

までお振込みください。ご記入頂いた住所に
「雅楽だより」を送らせて頂きます。数年分
まとめての振込みも受け付けています。

○「雅楽だより」

購読料一年(4回発行)千五百円。(送料込)
郵便振込用紙に住所、氏名をご記入のうえ、
「口座番号」00140-5-614032
【加入者名】雅楽協議会
【購読・継続 申し込み方法】

までお振込みください。ご記入頂いた住所に
「雅楽だより」を送らせて頂きます。数年分
まとめての振込みも受け付けています。

○「雅楽だより」

大震災から2年、まだ多くの人が避難した
ままでいる。出来ることはしなければと思う。
あとがき

○「雅楽だより」

大震災から2年、まだ多くの人が避難した
ままでいる。出来ることはしなければと思う。
あとがき

○「雅楽だより」第33号

2013(平成25)年4月1日

発行 雅楽協議会 「雅楽だより」編集担当
編集 遠藤徹 TEL 03-5902-7281

東京都西東京市向台町6-12-6(鈴木治夫)

FAX 042-451-8898
メール gagakudayori@yahoo.co.jp
http://www.gagaku-kyoukai.com/

印刷 秀英堂紙工印刷株式会社
FAX 03-5902-7282

雅楽の楽器・譜面ほか
(株) 武藏野楽器

〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6
電話 03-5902-7281
FAX 03-5902-7282